



一般財団法人

安藤ハザマひとづくり財団

2025年度
若手建設技術社員・
技能労働者育成
助成金

CASE STUDY

若い人の個性を大切にして、 仕事を楽しくしてもらおう！



大阪府大阪市

Vol.09

株式会社明治大理石

株式会社明治大理石には毎年、職人希望の若者が入社してきます。一昨様が1名、昨様が2名、そして今春は2名の予定です。「入社してくれた社員には、早く一人前になって仕事を楽しめるようになってほしい」との思いは強いものの、彼らを迎える現場には、未経験者が仕事をしながら覚える余裕が十分にあるとは言えません。解決策を模索する中で中家社長のヒントになったのは当財団が展開している事例紹介リーフレットでした。これを参考にして同社は自社施設内に実習用設備を整備し、現場の負担を抑えながら若手に基本技能を身に付けさせる場を設けています。

CORPORATE PROFILE

株式会社明治大理石

設立	1977年4月
代表者	代表取締役社長 中家祥裕
資本金	1,000万円
社員数	25名
主な事業内容	石材工事業
所在地	大阪府大阪市
ウェブサイト	http://www.osaka-meiji.co.jp/



営業部
中家 祥太氏

代表取締役社長
中家 祥裕氏

「個性を大切にす」風土

同社は2022年以降に10名の若手(内勤者を含む)を採用しましたが、ハローワークからの紹介のみでそれ以上の採用活動はしていません。これまで辞めた人は一人もおらず(2026年2月現在)、今春に新入社員3名を迎えると平均年齢は4年余りで10歳ほど下がり39.7歳に、職人女性比率は0%から23%へ、若返りと女性活躍が進んでいます。そこには会社が大切に育んできた「個性を大切にす風土」が大きく関係していると感じます。その象徴的な取り組みをご紹介します。

職人にはユニフォームがありません。あえて作らないそうです。費用は会社が負担するが、各自、好きなものを身に付けなさいというルールです。「枠にはめない。その方がパフォーマンスは上がる。」という中家社長の考えは若手職人にも伝わっており、この対応に「感謝しています。」と好評です。

本社ビルの前に展示ケースを置き、石材のアート作品を飾っています。展示物は入社2年目の若手社員が毎月、新たなものを制作して入れ替えます。大学で美術を学び、すでに石材補修の色合わせではそのセンスを遺憾なく発揮している社員に、仕事として

楽しんでもらいたいと始めました。そのうちこれを撮りに毎月来られる子連れの母親が現れ、次第にその人数は増え、アート作品の前で談笑の輪ができるという思いもよらない効果を生んでいます。

大阪人にとっての心の拠り所「天神祭」の日に、社長と若手社員の面談が行われます。テーマは主にキャリアデザイン(どう働き、どうなっていきたいか)についてで、社員は、今の自分と一年後の自分を社長の前で語ります。中家社長は「人によって成長速度は違ってよい。会社がこうなってほしいと決めつけない。一年後に対して前向きならOKとする。」というスタンスです。そして本人の意思が感じられれば支援を惜しまない。例えば、フォークリフトの免許が取りたいという要望があれば、そのための時間と費用を会社が支援するそうです。



▲ 本社前の石材アート展示

実習用設備の整備

実習用設備は本社から車で20分ほどにある自社倉庫の一角に設けられています。高さ1.2メートルのL型擁壁で、墨出しから巾木取付け、壁石、笠石、そして石床と段階を踏みながら学ぶことができます。幅は約10メートル取り、一度に5～6人の実習が可能です。

また、下地はコンクリートとし、開けた穴を埋めて繰り返し実習ができるようにしました。使用する石材は現場で出た廃材を

利用し、環境にも配慮しています。

指導役は同社の番頭を務めていたこの道50年のベテラン職人が務めます。世代間ギャップを埋めるために、いわゆる詰め込み教育のような画一的な指導ではなく、若者の気持ちを押し量りながら技術を伝えることを大切にしています。

施設は「現場と違って繰り返し練習できるのがよい」「いろいろな石でトレーニングでき自信がついた」など若手社員にも前向きに受け止められています。

代表取締役社長 中家 祥裕氏

仕事を楽しくするために

仕事は楽しんでやりたいですね。そのためには主体的に取り組む姿勢が欠かせないと思いますので、当社の仕事の流儀は「御用聞き型」ではなく「提案型」です。顧客視点で課題やニーズを発見し、解決策を提示していく。相手が日本を代表する著名な設計事務所であってもです。もっと良いものを作りたいという思いから、私自身も時間を見つけて石材を用いた建物を巡り、知見を広げています。この思いは発注者や設計事務所にも通じ、信頼を得られて良い仕事に結びついています。

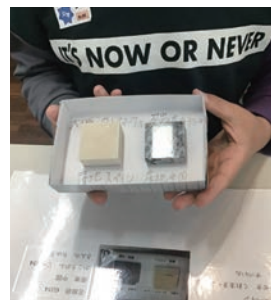
だから若い人も早く仕事を覚えて、石張りの仕事を楽しめるようになってほしい。そうすると従来のように現場で下働きを長くさせてというわけにはいかないので、この実習用設備に大いに期待しています。新人が現場に行く前に一通りのことができるようになり、さらに、石張り工事は繁忙の波があるますのでその手空きときに技術を磨くことができるでしょう。

社会とのつながりを大切に

石には芸術性があり、ワインのように種類と産地によって特性がある奥深い世界です。この石の魅力を多くの方に伝えられる

よう、CSR活動が世の中で一般的になる前からコツコツと続けています。

例えば、子供たちが集まる各種イベントで「石材標本をつくらう」という企画を行っています。私が大理石と花崗岩のでき方や使われ方について話をしたあと、各自、その標本を作ってもらいます。子供たちは真剣そのもの。手本はありますが、石の並べ方や説明文には子供の個性が出るので出来上がりが楽しいです。



▲ 子供が作った石材標本

今後のビジョン

もっともっと社員が幸せだと感じられる企業にして、そして世の中の人々が幸せになれる空間を造っていきたい。そのために大事にしていることは「仕事は楽しく」のほかに「仕事は正しく」です。それは単に法律やルールを守るというだけではありません。石張りのプロとしての誇りや責任を守ることが含まれ、若手社員にも求めていきたいと思っています。

事務局コメント

前々から「ハローワークの紹介で若手を採用している。」と中家社長から伺っていたのですが、どういことなのか理解できませんでした。新卒は学校、新卒以外は就職情報サイトかSNSを通じてアプローチするものだと思い込んでいたからです。今回の取材でその疑問は解けました。同社は「若手の個性を大切にす成長を促している」「女性活躍に取り組んでいる」「CSR(企業の社会的責任)活動が続いている」。中家社長流に言えば「正しいことをする」会社なのです。だからハローワークは同社を若い人に紹介し、彼らはその扉を叩くのだと納得しました。